

第 67 回日経・経済図書文化賞決まる¹

2024 年 11 月 3 日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の 2024 年度・第 67 回「日経・経済図書文化賞」受賞図書は、次のように決まりました。

《受賞図書》

特賞（賞金 150 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

『マクロ経済動学』

楡井 誠 著（有斐閣）

賞（賞金 100 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

『物価指数概論』

阿部 修人 著（日本評論社）

『地域医療の経済学』

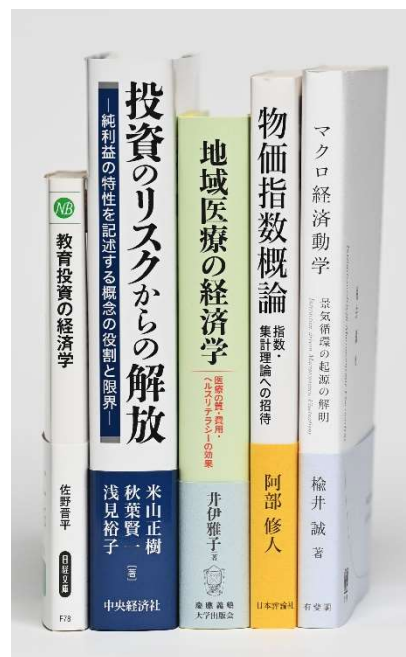
井伊 雅子 著（慶應義塾大学出版会）

『投資のリスクからの解放』

米山 正樹・秋葉 賢一・浅見 裕子 著（中央経済社）

『教育投資の経済学』

佐野 晋平 著（日本経済新聞出版）



総 評

直面する日本の課題 検証

審査委員長／大阪大学特任教授 大竹 文雄

今年度の「日経・経済図書文化賞」は、景気変動、物価、医療、会計基準、教育という日本が直面する課題に正面から取り組んだ書物に決まった。また、1998 年度以来 26 年ぶりの特賞が授与される。

近年、現実の経済問題を克服するために、最先端の経済学・データ分析を活用した研究書が数多く出版されている。研究成果が英文の専門論文としてだけでなく、背景となる情報も含めて日本語の書物として出版されることで、政策へ反映されやすくなり、日本の研究の活性化をもたらす。そ

¹ 「総評」・各受賞作品「書評」は、2024 年 11 月 3 日付日本経済新聞より許諾を得て転用したものです。

れがさらに将来の良書を生み出す。この好循環が生まれていることを実感した。

特賞となった「マクロ経済動学」(楡井誠著)は、外生的なショックがなくても、企業や投資家というミクロの相互作用から統計モデル「冪(べき)乗則」を通じて、投資、物価、資産価格の変動が生じることを理論的に示した。独創的で世界的な研究成果であるだけでなく、研究の意義、マクロ経済動学の進展、高度な研究内容を的確な日本語で説明しているという点が高く評価された。

インフレーションや実質生活水準を計測する物価指数は、政策の目標や評価に使われている重要指数である。しかし、その経済学的な意味をきちんと理解している人は少ない。「物価指数概論」(阿部修人著)は、物価指数の概念を包括的に整理し、目的に応じて適切な指数を用いる必要性を示している。世界的にも類書がない貢献である。

「地域医療の経済学」(井伊雅子著)は、日本では病床数、医療費、医療の質に関する情報が十分に公開されていないこと、それが先進国では少数派であることを示し、得られるデータを基に日本の医療の実態を浮き彫りにした。日本の医療の資源配分に歪(ひず)みをもたらしている本質的問題を示した。

「投資のリスクからの解放」(米山正樹・秋葉賢一・浅見裕子著)は、書名で示された基礎概念に基づいて企業の純利益を定義し、会計基準の再構築を目指した。日本の会計基準の今後を考える上で必読であると評価された。

「教育投資の経済学」(佐野晋平著)は、日本の教育がおかれた現状を踏まえながら、海外だけでなく、著者自身の研究も含めて日本のエビデンスを豊富に紹介した優れた啓蒙書である。

受賞作以外にも優れた書物が多かった。最後まで候補に残った著作を紹介しよう。

「輸入ショックの経済学」(遠藤正寛著)は、中国からの輸入急増を示すチャイナショックなどの「輸入ショック」について、日本の文脈で多面的に検証した力作である。チャイナショックは、米国とは異なる影響を日本に与えていたことを示した。

「健康朝鮮」(林采成著)は、医療、健康、インフラの構築という枠組みで、1910年代から太平洋戦争終結までの植民地朝鮮がどのようにして人々の健康を管理しようとしたかを探る意欲的な実証研究である。

「近世の産業生産」(水鳥川和夫著)は、第2次・第3次産業を含め、江戸時代の個々の産業の生産額と付加価値を推計し、それを積み上げて近世日本のGDP(国内総生産)系列を構築した労作である。

「アジアのなかの日本」(坂根嘉弘著)は、アジア諸地域との比較を踏まえ、日本の農村における徴税、信用組合、肥料市場の発展の基盤が近世に成立した村にあることを示している。

「スタートアップとは何か」(加藤雅俊著)は、経済活性化の担い手として期待されるスタートアップに関する実証研究を丁寧に紹介し、政策に関する重要な示唆を与えている。

「ジェンダー格差」(牧野百恵著)は、女性の労働力参加、クォータ(割り当て)制、社会規範、育児休業制度など、ジェンダー格差を議論する際に必要な経済学の考え方とエビデンスについて網羅した好著である。

◇審査対象

2023年7月1日から24年6月30日(外国語著書は23年1~12月)の間に出版された日本語または日本人による外国語で書かれた著作で、本賞に参加を得たもの(一般の人が自由に購入できる図書に限る)。

◇審査委員

(委員長) 大竹文雄 大阪大学特任教授

(委員) 徳賀芳弘 京都先端科学大学教授

深尾京司 経済産業研究所理事長・一橋大学特命教授

岡崎哲二 明治学院大学教授

堂目卓生 大阪大学教授

福田慎一 東京大学教授

翁 百合 日本総合研究所理事長

沼上 幹 早稲田大学教授

細野 薫 学習院大学教授

松井彰彦 東京大学教授

澤田康幸 東京大学教授

中林真幸 東京大学教授

佐藤主光 一橋大学教授

大橋 弘 東京大学教授

神田さやこ 慶應義塾大学教授

川口大司 東京大学教授

北尾早霧 政策研究大学院大学教授

菅野幹雄 日本経済新聞社論説委員長

岩田一政 日本経済研究センター理事長